

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム うたがきの里
(ユニット名)	Aユニット
所在地 (県・市町村名)	佐賀県 白石町
記入者名 (管理者)	中溝 和子
記入日	平成 20 年 10月 27日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を玄関に、又 グループホーム うたがきの里で実際にしていきたいことを具体化・文章化し、各ユニットと事務所内に掲示している	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時、職員全員で理念を唱和し、理念に基づき日々の課題解決に取り組んでいる	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には理念を刷り込んだグループホーム便りを配布したり、運営推進委員様にも理念の説明を行った	○ 今年度より自治体に参加した事を活かし、地域への啓発に努めたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	畑では近隣の方と野菜の出来具合を話したり、散歩では挨拶を交わしたりしている。週1回ほど自家製の漬物やちょっとしたおやつを持って訪問して下っている方には夏祭りに招待したところ参加して下さった	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会費を納め回覧板などが回ってくるようになってからは地域行事等の情報に敏感になり参加できるものは参加している。年2回の川掃除に参加したり老人会・婦人会よりお誘いがくるようになった。近隣の小学校の運動会にも参加させていただいた	○ グループホームのことをより理解していただく為にグループホーム便りを回覧板で回していただけるようにしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩がてらの近隣道路のゴミ拾いを計画したが、実施した回数も参加者も限られていた	○	認知症の理解を深める為の交流会などができればと思っている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価をすることにより自分の事業所が何を目指しているかということが理解できてきた。前回の評価を活かし何点かは改善できた	○	前回のご指導によりソフト面でのケアは十分に話し合い、改善してきたがハード面ではまだ残っている課題があるので徐々に改善していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で外部評価の結果を報告したところ興味を持っていただき自治会加入が可能になった	○	まだ事業所からの報告が多く、委員様からの意見をより多くいただけるようにしたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	夜間避難訓練の打ち合わせに参加していただき情報を共有できた	○	お互いに「どう接したらよいのか今までわからなかった」という意見が一致した為、機会を作って互いに訪問したい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人全体の研修会や外部研修等で学習はしたものの、まだ対象者はおられず個々への支援には至っていない	○	今後 該当者入居に備えて機会があれば研修会等には大いに参加したい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修会や外部研修等で学習した。事業所内で虐待防止委員会を設置し職員会議で議題に取り上げているが事例は殆ど無い	○	被害妄想のある方については他者が無意識に発する言葉で気分を左右される場合がある為注意が必要である

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書を取り交わし十分な説明を行い、承認印をもらっている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者はいつでも職員に対し不平不満を自由に訴えておられる。又 介護相談員様の訪問時には利用者と直接話される為、ケアのヒントをいただいている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に面会時に近況報告を行っている。利用料請求書と一緒に小遣い帳のコピーや買い物された領収書を送付するようにした。又 利用者の状態に変化あれば必要に応じて随時報告している	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。契約書にも苦情受付窓口を明記し契約時に説明している。又家族の心情は面会時に傾聴し必要な点は職員で周知し解決に向けている	○ 開所以来 苦情は無いが、今後発生した場合は真摯に受け止め誠意を持って対処していくつもりである
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な会話の中に職員の意見を訊くようにしている。又職員会議の際、職員の思いを吐き出せるよう時間を設けている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	公休申請を受け付けている。公休が同一日に殺到する時は話し合いお互いに譲り合い、必要人数は確保できている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職については結婚等やむを得ない理由であり、異動については退職者の補充として人選をし配置している	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は積極的に参加させると共に、職員の有している各種資格を活かした内部研修を実施している。介護福祉士の受験にも取り組み4人が合格した</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年度より地域の5事業所と地域連携協議会を発足させ2ヶ月に1回、情報交換や議題を決め協議を行っている。又 介護保険事務所の職員様の参加があった時は貴重な意見をいただいた</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>介護職員を定数より多く雇用し年次有給休暇を取得し易くしている。又 勤務表作成時には公休希望日等を申請させ配慮している</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度を導入している為チャレンジシートを記入する事により法人の理念に則り個人目標を設定している</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>受付から入居までの間に家庭を訪問し話をうかがっている。又訪問ができなかった場合でも 入居時には契約の場に同席してもらい話をうかがうようにしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けてから自宅を訪問したり、見学に来てもらったりして利用者や事業所についての不安な点を聞き出し理解されるよう説明している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床などの理由で入居不可の場合、デイサービスセンターや他施設等への紹介を担当ケアマネージャーと共に行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人や家族に見学に来てもらったり、家庭を訪問し職員と少しでも顔見知りになるようにしている	○	実際の入居の前に日中グループホームで過ごしてもらったり泊まりを体験していただけるようにしている
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬い生活上の智恵と知識を勉強させていただき、日々の暮らしの中やマスメディア等からの情報については共に一喜一憂し共感する事を大切にしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活歴はご本人ばかりではなく家族からの情報に頼るものが多く、面会時の会話や近況報告の中から利用者について共感できる事も多い為、支援に活かす事ができている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	例えば顔を合わせるとすぐ言い争いを始められる親子様も「お互いに心配されてますよ」という職員の言葉に表情が和らいでおられることがある	○	面会が極端に少ない家族に対してはこちらからの連絡を密にし、相互の思いを伝えていきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅はもちろん生家訪問や、デイサービスを利用されていた方などについてはディ訪問や職員が尋ねてきたりしている。又 自宅近隣の方の面会者も少なくない		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い方同士の居室訪問時やソファや炬燵で過ごされている方にはさりげなく茶菓子を出し寛がれるよう支援している。A・Bユニット間の行き来も自由である。又 反対に仲違いをされる方にはさりげなく距離を置き職員が付き添っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ここでの出会いが縁となり転院先へ見舞いに行ったり、自宅復帰された方の家族に会えたときは近況などをうかがっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の訴えの中の真なるニーズを察知し叶えられるものはその都度解決し本人の安心感を大切にしている。又 解決が長期にわたる事柄はケアプランに取り上げ改善に向けている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に記入する入居調査票と独自に作成した「バックグラウンドアセスメント」により情報を把握している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りや日々の日誌類・ホウレンソウノートを読み返す事で、又 職員間の会話から生活パターンや健康状態はほぼ把握できている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを立てる際、可能ならば会議に参加してもらい本人より直接 意見を訊き、参加不可の場合は家族の希望や日々の暮らしの中からニーズを探し出している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングで見直したり、著しく変化のあった方や退院後は入院先の医師や家族と話し合い、本人や家族の希望に沿えるような計画を立てている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤日誌として日報に随時記入しスタッフ間の周知に役立っている	○	日報と個々の介護記録が重複する部分が多い為、簡素化を検討中である
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の受診等は家族介助を原則としているが隣接の医院への受診は散歩がてら付き添っている。又 独居の方で家が気になると帰宅を希望される場合は介助している。入居前の泊まり体験も可能である		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察へは職員と利用者の名簿を渡しており、緊急時の協力を仰いでいる。地域消防団には年1回の夜間避難訓練に協力してもらい、気付きなど貴重な意見をいただいた		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では該当者はおられないため支援は実施していない	○	該当者があれば支援していくつもりである
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では協働はしていない	○	該当者があれば支援していくつもりである
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と共に近隣の医療機関に転院されるケースが多く、利用者の多様な症状に迅速に受診できる体制があり、必要ならば気軽に往診もしていただいている	○	近隣の医院の休業日の急変などは救急車対応だと職員間で周知している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関わる事柄は他者に聞こえないよう配慮している。記録類は事務所に保管し、記録内容では人権を無視するような表現は極力避けている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	訴え時は1対1で静かな場所で傾聴したり、家族はいつも本人の事を心配していますと説明すると落ち着いてこられる事が多い。活動参加も強制はせず、本人の心身の許容範囲内で自己決定を促している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の日課表は存在するが利用者の急な動きや希望があれば臨機応変している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時、寝ぐせ直しスプレーとブラシを活用している。散髪は月1回の訪問理容を受けているが毛染め・パーマなどは家族の協力を仰いでいる。季節にそぐわない衣類はさりげなく助言している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合わせた食事形態や好き嫌いを職員は把握している。可能な方には簡単な調理をお願いしたり、食器拭きを買って出られる方同士、台所で鉢合わせになられる事もある。今年度より職員も利用者と同じメニューを同じテーブルで摂るようになり、共通の話題が増えている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	男性の方で、家族の強い希望と医師の承諾を得て毎日晚酌を楽しんでおられる。おやつも好き嫌いを把握し代替品をお出ししている。お茶の濃淡や量など個々の希望に応じている。個人でヤクルトを購入される方もいる	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人差はあるが定時の排尿誘導をすることで尿失禁が軽減した方もいらっしゃる。ヤクルト飲用など家での習慣を続けたり、なるべく食物繊維の多い食材を取り入れの便秘予防に役立っている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが拒否や体調不良があれば変更は自由にでき、時間も午前・午後希望されるときに入浴できておられる		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室の為 自由に1人になられたり、気候や体調にあわせ空調に配慮したり、希望される場所で午睡されたりしている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の管理・縫い物・食器拭きなど得意分野を発揮していただき、表情も生き生きなれば満足感をあじわっておられる様子である。外出・塗り絵など好まれる活動も支援できている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金があることで精神的な安堵感を得られる方もあり、少額ではあるが家族の了承の上 所持してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花を求めてドライブに出かけたり、自宅訪問をしたり、個々の希望に沿っている。近隣のお地藏様は利用者の心の拠り所となっている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜の名所への花見やスーパーへの買い物など情報を集めて出かけている。	○	正月・盆・連休など家族とふれあう良い機会だが家族の都合で中々外出・泊されない場合があり、本人の心情的フォローをしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望者には取次ぎを行い、手紙をかかれる場合は葉書・ペン・切手など準備した		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者には常に明るい声かけをし、速やかに湯茶接待を行っている。その際 居室やホールなど好きな場所で過ごしていただいている		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関連研修や学習会参加後の周知により職員の誰もが身体拘束の弊害を理解している。事業所内でも身体拘束廃止委員会を設置し、日常においてケアの再確認を行っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠が与える精神的苦痛を避ける為、夜間の戸締り以外は玄関・窓は開放し自由に行き来してもらっている。その際は所在確認を怠らないようにしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	帰宅願望のある方や外気浴を好まれる方を職員は把握しており、動きを早めに察知し無断外出や転倒などに注意している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類や刃物は利用者の目に触れないようにしているが、菓子袋を切るためのはさみや裁縫道具などその方の力量を見極め所持してもらっている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の意義は職員全体研修会や外部研修などで学習しヒヤリハットノートや日誌類を活用し介護事故防止に尽力している。又 心身の状態にあわせ夜間の巡視を増やしたりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AED操作法やCPR法の研修会参加者による周知を行った。	○	全職員が自信をもって対処できるまでは全職員に専門的な研修と繰り返しの訓練が必要であり、機会があれば研修を受けさせたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回 地元消防団と夜間避難訓練を実施し、近隣住宅へは訓練をする旨を前もって知らせている。警察へは利用者が入居者の名簿を渡しており人数などは把握してもらっている	○	緊急連絡網は整備しているが、他の災害時の訓練は実施できていないため話し合いや訓練が必要だと思われる
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒や急変の可能性の高い利用者は家族にその旨を報告している。リスクの高い方は動きを抑制するのではなく見守りを強化し、普通の暮らしを支援し主治医との連携は密にしている	○	見守りを疎んじられる方もあり、拘束ととられかねない部分もある為さりげないケアを工夫している
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回のバイタルチェックと全身状態の観察を欠かさずに行っている。明らかな異変があれば主治医へ迅速な報告を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の保管はケア側で行っており薬効・薬方はほぼ把握している。又症状の変化は直ちに医師に報告し対応してもらっている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢者においては便秘の及ぼす影響は多大で、意識消失にまで発展した事があり、予防の大切さを再確認した。食べ物や運動などで改善できない場合は薬や受診で解決している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きや義歯磨きを促し、不十分な方には仕上げ磨きを、拒否される方には時間を置いたり次回にしようとしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小食が習慣化しておられる方には小盛にし、完食できたという満足感を味わっていただき、体重管理を行っている。水分不足については少量ずつ頻回に勧める事で摂取量を確保している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し周知している。職員が感染した場合は医師の許可が出るまで出勤停止としている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の手指消毒を徹底し調理道具は毎日消毒し、冷蔵庫・流し台・引き出し・食品庫などは月1回は必ず清掃し、食品の消費期限は、毎日チェックしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ポーチにはスロープ・手すりを設置し、花の鉢物や花壇などで季節の移り変わりを感じてもらい、家庭的な雰囲気を出している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や壁掛けを飾ったり、夜間はテレビの音量を調節したり、レースのカーテンや天窓のブラインドで採光を調節している。冬は炬燵を設置し家庭的な雰囲気を味わってもらっている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角にグリーンコーナーを設け一人になられたり、玄関で過ごしたり、仲のよい利用者同士が居室を訪問しあったり、畳の間で午睡したり思い思いに過ごされている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へは入居時や訪問時に「なじみの道具の持ち込みを」とお願いし、写真や本などを置かれている。	○	持込ばかりでなくホームからのプレゼント等で室内を居心地よく飾りたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時に全館開け放し換気をしている。窓を開けられないときは換気扇を活用しにおいのこもらない工夫をしている。各居室の温度調節は利用者の状態に応じて個々に対応している。ホールは温湿度計で空調管理をしている		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろんの事、各所に手すりを設置し、ベッド柵は健側につける、ベッドの高さを調整、必要に応じ居室に畳を設置するなど工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所に目印をすることにより、トイレや自分の居室を理解できておられる		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキは焼き肉会や外気浴・洗濯物干しなどに利用価値は大きい。玄関ポーチでは椅子で日向ぼっこ、鉢物や花壇への水やり等してもらっている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本事業所周辺は、田園風景が広がり近隣には住宅・小学校・保育園もあり、グループホームとしての環境には恵まれていると思います。利用者本位の暮らしを送っていただく為に職員の意識の統一を図り、資格取得を勧め職員の質の向上に努めております。利用者からは「ここでは安心して楽しく暮らす事ができる。ここに来て良かった」といってもらえるように思いを受け止め、願いを叶えるために柔軟な対応を心がけています。